

青果物流通の現場から

第3回 相場形成のメカニズムについて①

ほん だ しげる
本田 茂

JA 全農みやぎ
園芸部 生産販売課
中小企業診断士



1. はじめに

産地の販売担当の方は、毎日、市場からの市況を注意していると思います。今日の「ほうれん草」

の相場価格（以下相場）はいくらだろう？ 保合（もちあい）か？ 上げか？ 急落か？ 毎日相場に悪戦苦闘している方もいらっしゃると思います。

そもそも、相場って何？ どう

やって決まるの？ 相場形成のメカニズムは、産地からは見えにくいブラックボックスになっている部分です。今回と次回にかけて、この相場形成のメカニズムについて明らかにしていきます。まず

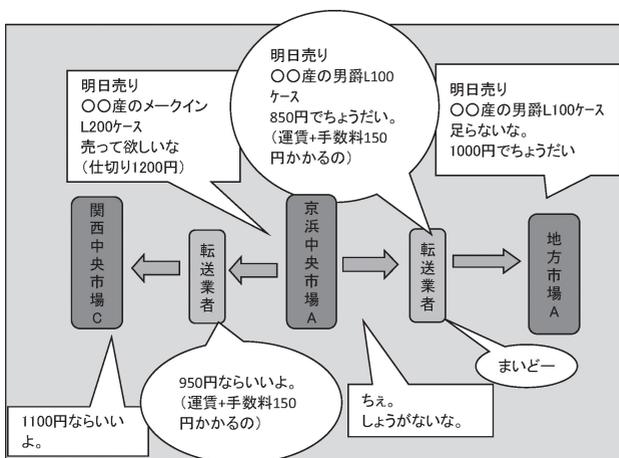


図1 卸売市場と転送業者の流れ

は相場形成に欠かせない「影の主役」について触れましょう。

2. 転送業者という影の存在

卸売市場にとって、産地からの入荷量と量販店等への販売量が日々ぴったり合うことはありません。全国

には80弱の中央卸売市場、1,200弱の地方市場がありますが、供給過多で売り先を探している市場もあれば、荷物が不足している市場もあります。

この全国の市場の毎日の調整をしているのが転送業者なのです(図1)。転送業者が荷物を運ぶと運賃と手数料がかかります。図のジャガイモの場合だと大体150円/10kg位でしょうか。この150円が引き金となり、卸売市場、転送業者のドラマが生まれるのです。

3. 保合^{もちあい}(※1)のメカニズム

転送業者にとって、需要と供給

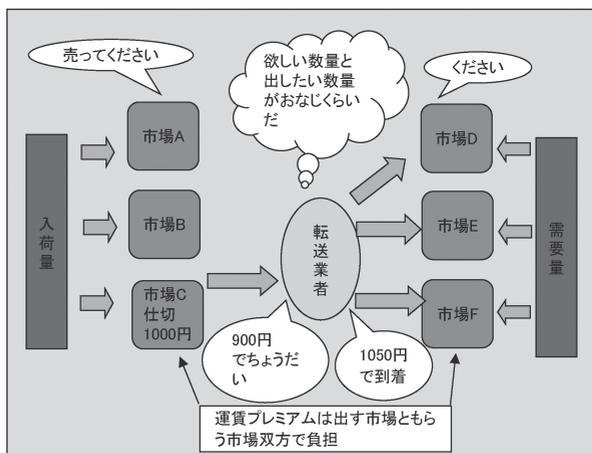


図2 保合のメカニズム

がつりあっているとき、相場価格の100円位を差し引いた価格で市場から引き取り、運賃150円を足して荷物を欲しいという市場に届けます(図2)。運賃プレミアム(上乘せ価格)は、取引する双方の市場で折半することになります。わりとスムーズに荷物が動き、相場も動かない保合になるわけです。

4. なやみ^(※2)のメカニズム

なやみの時は、転送業者の立場にたってみると、荷物を出す市場から運賃プレミアム分を安く仕入れて欲しい市場に届けます(図3)。転送業者は毎日たくさんの市場と

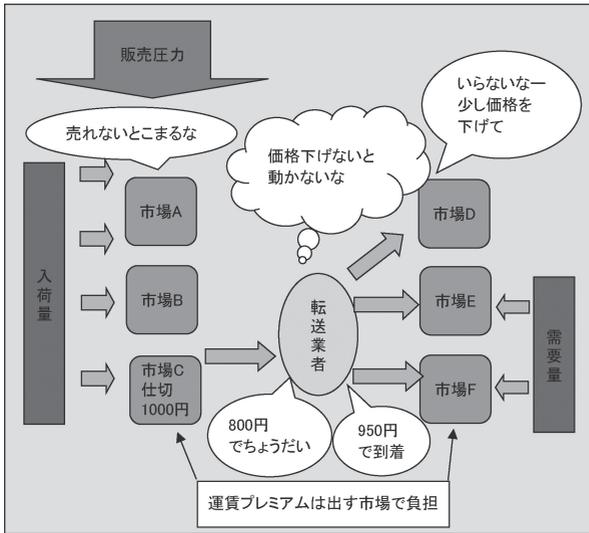


図3 なやみのメカニズム

圧力が高まっていますので、転送市場に出てくる価格はどんどん上がっていきます。そうすると翌日の関西市場の相場がセリで一気に跳ね上がる「急騰」という状態に発展することもあります。

6. 終わりに

話をしますので、入荷量が多くなり販売圧力が高まってくると、市場から出てくる値段が次第に安くなってきます。当然、転送業者は安い市場から優先して荷を運びますので、結果、転送業者に出す価格が広まっていきます。

いわゆる裏相場の形成です。

5. もがき^(※3)のメカニズム

反対に、入荷数量より需要が多い場合は、荷物を出す市場に価格決定権が移っていきます(図4)。量販店の注文など数量を確保する

相場形成の前段となる転送業者と卸売市場の関係について解説してきました。このように転送業者は、配送機能と市場間の仲介機能を持ちあわせ、毎日の市場流通に深く関わっています。携帯電話の普及により、転送業者とはほぼ全国の市場担当者は連絡を取り合っており、転送業者の情報収集力、伝達力は無視できないものとなっています。産地の方から見ると、転送業者の言いなりになっているのではないかと悪イメージを形成する、と悪いイメージを持たれる方もおられるかもしれませんが、転送業者を動かしてい

るのもまた卸売市場なのです。筆者も品目担当時代は、転送業者が形成する相場に準じるのではなく、自社の販売環境に合わせた仕切価格の形成を意識してきました。しかし、日々入荷量と販売量の調整が必要な立場から、転送業者に何度も助けられた事があるのも事実です。

ここの所が転送業者は必要悪と言われるゆえんですが、産地の皆様が数量契約なしに自由に卸売市場に出荷できるのも、なやみ、もがきの調整を卸売市場の裏方でこの転送業者が担っているおかげだとも言えます。

そうです！ 勘のいい方は気付かれたでしょうか？ なるべく卸売市場の需要と供給をぴったりにすればこの150円が浮き仕切価格に反映することができるのではないだろうか？

次回では、転送業者と卸売市場

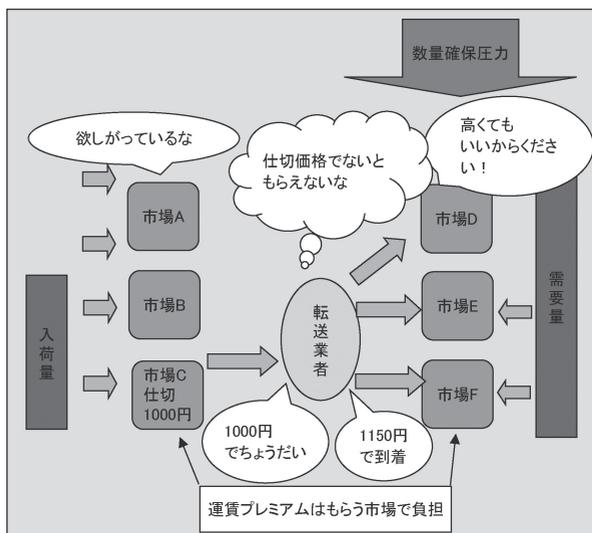


図4 もがきのメカニズム

の関係からどう相場形成に結び付くのか？ 産地の立場からこの相場にどう向き合っていくべきか？などを伝えていきたいと思います。お楽しみに！

- ※1 本来の保合は、相場が変化しない様子を言うが、卸売市場の立場から、需要と供給が釣り合っている状況と言うときもある。
- ※2 卸売市場の立場で、需要より供給量が多い状況。いわゆる荷物が余っている状況
- ※3 卸売市場の立場で、供給量より需要量が多い状況。いわゆる荷物が足りない状況